



病床数 253 床を有する宇治病院。老健施設 92 床を併設し、慢性期の患者を中心とした医療を展開している。

COVER
STORY

社会福祉法人 あじろぎ会

2021
08

京都府

宇治病院

新築移転を見据えて導入した電子カルテは リーズナブルな導入・維持コストに加えて 機能・管理性にも優れるクラウド型であった

2014年に社会福祉法人あじろぎ会の病院として再スタートを切ってから7年経つ、銘茶の里の宇治病院。2020年から続くコロナ禍でも、病院スタッフの努力の甲斐もあり、無事に苦境を乗り切ってきているという。同院では老朽化した建屋の新築を数年後に控えているが、それに先立ち、昨年、電子カルテシステムの導入を果たした。予算、機能、管理等、複眼的にシステム選定を行った結果、クラウド運用対応のWeb型電子カルテシステムが選ばれた。IT化の考え方、導入の経緯等について、同会の林理事長、藤田院長ら、キーパーソンの方々に話を聞いた。

新 医 療 2021年8月号 (8)

Interview

社会福祉法人 あじろぎ会 宇治病院
理事長

林 顕太郎氏に聞く

——宇治病院の沿革と概要からお聞かせください。

1952（昭和27）年に誕生した社会福祉法人宇治病院が、当法人の前身となります。4度にわたる増改築を経て、病院規模を253床まで拡張し、1989年には老人保健施設を併設、2001年には特別養護老人ホームを開設するなど、事業を拡大してきました。しかし、やがて業績が悪化し、2014年11月に地域経済活性化支援機構の再生支援を受け、新たに社会福祉法人 あじろぎ会として再スタートを切ることになりました。

あじろぎ会は、社会福祉法人としては珍しく、病院と老健施設を有していることが特徴と言えます。宇治病院は慢性期を中心とした診療を行っており、病床数は253床、同院に併設する介護老人保健施設は92床を有し、デイケアも一緒に運営しています。

法人にはこの他に、同じ宇治市、笠取の地に特養50床、ショートステイ20床、ケアハウス30床を有する笠取ふれあい福祉センターがあり、その他に居宅介護支援事業所、訪問看護、訪問リハビリテーション、福祉用具のレンタル等を行う介護事業も展開しています。

当法人は高度医療こそできませんが、

医療と介護を横軸、在宅と施設を縦軸に事業を展開し、医療から介護に移られる方、介護から医療に切り替わる方、施設から在宅に変わられる方、在宅から施設へ行かれる方を支援し、高齢者の医療・介護・福祉事業における地域のハブ施設を目指しており、宇治病院はそのゲートキーパーとしての役割を目指しています。

——2020年にクラウド型の電子カルテを導入した経緯をお聞かせください。

電子カルテについては、いざ導入しなければならぬとは考えていました。しかし、電子カルテは、当院のような施設においては業務効率が劇的に向上するわけではありません。それでも、当法人が有する施設の情報医療ITによって一元化し、共有することができれば、それを活用した業務の効率化を図ることは可能と考えたのです。

ただ、業績見通しから考えると、当法人は現在、決して余裕のある経営状態ではなく、収益を生まないものへの投資は最小限にしたいのが実状です。

そこで、電子カルテをオンプレミス型にするか、クラウド型にするかと考えたとき、答えは簡単でした。オンプレミス型ではハード面で多大な設備投資が必要で、高度化した設備に対応する人材も必要です。セキュリティについても、最近ではランサムウェアやマルウェアなど、医療機関でもサイバー攻撃を受ける事例が報告されており、情報セキュリティ上の投資も必要となり、当法人だけでは、そこ

までのリスク管理に対応できません。

10年前であれば、クラウド型という選択肢は無かったでしょう。しかし、最近通信環境やハード・ソフト面の技術向上が進んでおり、クラウド型でも十分診療に耐えるシステムが登場しています。データセンターに貴重な情報は収納されているので、最高度のセキュリティも担保されます。また、オンプレミス型のように固定資産を有することにはならず、ランニングコストのみを支払うことは、経営側からすればキャッシュフローが読みやすくなり、経営の健全化にもつながると考え、クラウド型の電子カルテが良いと考えたのです。

クラウド型の電子カルテは数社から販売されていますが、大手ベンダーのシス

テムは当院に不必要な機能が多すぎ、それ故、価格も安くはなく、当院のような施設には不向きと言えます。

そこで、リーズナブルな価格で、必要な機能を装備しているソフトマックスのクラウド運用が可能なWeb型電子カルテ「[E]ssence」を導入することを決断したので。

——電子カルテ導入後の課題と、今後の展望についてお聞かせください。

電子カルテは順調に稼働していますが、情報共有が進んだ分、情報をいかに管理するかが重要となりますので、スタッフの医療ITのリテラシー、意識を育てていく必要があります。今後は、老朽化した当院の建て替えが最大の課題ですが、それに向けて医療ITを活用した業務の効率化をさらに進めていきたいと考えています。



林 顕太郎 (はやし・けんたろう)氏

1969年三重県出身。1991年桃山学院大学卒。エヌエヌパートナーズ㈱等を経て、2014年社会福祉法人あじろぎ会理事長に就任、現在に至る。

(9) 新 医 療 2021年8月号

■ 社会福祉法人 あじろぎ会 宇治病院
**病院新築を見据えた電子カルテの導入を図り
 情報の共有と業務の効率的な遂行を目指す**

Interview

社会福祉法人あじろぎ会 宇治病院
 院長
藤田正俊氏に聞く



藤田正俊（ふじた・まさとし）氏
 1973 年京都大学医学部卒。1983 年米国ミズーリ大学留学、1985 年富山医科薬科大学を経て、2003 年より京都大学医学部教授。2014 年より社会福祉法人あじろぎ会宇治病院院長に就任、現在に至る。

—— 宇治病院の概要と診療の現況についてお聞かせください。

2014 年11月に生まれ変わった宇治病院は、創立7年目を迎え、超高齢社会の真っ只中において、地域の医療・福祉の中核を担う病院として活動を続けています。

病床数は253床、職員数は医師・看護師・事務職員を合わせ、総計425名を数えます。病床には療養病棟113床、障害者病棟90床を有するなど、慢性期医療に特化している点が特徴です。

昨今のコロナ禍では外来患者が2割程度減少しましたが、ほぼ同時期に開設したベースメーカー外来・前立腺外来・セカンドオピニオン外来（泌尿器科）等の専門外来が好調で減少分を補うほどの医業収

入があったこと、院内でのクラスターを発生させることなく済ませたことは、全職員の頑張りが大きいと感謝しているところ
 です。
 この他にも宇治病院では、次世代の医療専門職を育て、地域医療の将来をより充実したものにするため、関連教育機関の実習生の受け入れを積極的に進めていることも特徴と言えるでしょう。なお、喫緊の課題である老朽化した病院の建て替えにつきましても、着々と準備を進めているところ
 です。

Web 型電子カルテ「Plus-Us カルテ」①
**クラウド運用によるメリットを享受
 院内の業務効率の改善に貢献**

—— 稼働を開始した電子カルテについての評価をお聞かせください。

電子カルテを導入した際、大混乱となった施設の話聞いたこともあり心配していましたが、医師や看護師たちからは紙カルテに比べて大幅に業務効率が良くなったと好評価を得ており、院長として安堵しているところ
 です。

クラウド対応の電子カルテ『Plus-Us カルテ』を導入したメリットとして、導入コストを大幅に抑えることができたこと、サーバを院内に設置する必要がなくそのため的人员も不要であったこと、今後計画している病院の建て替えに際して診療データの移行が容易になることが挙げら

■ 社会福祉法人 あじろぎ会 宇治病院
**コストや通信性などを評価して電子カルテの選定を実施
 クラウド型電子カルテならではのメリットの最大化を図る**

Interview

社会福祉法人あじろぎ会 宇治病院
 副院長
李 鍾大氏に聞く



李 鍾大（り・しょうだい）氏
 1976 年京都大学医学部卒。1985 年より福井医科大学勤務、同大教授等を経て、1996 年福井大学教授、2016 年よりあじろぎ会宇治病院勤務。同年より同院副院長、現在に至る。

—— 宇治病院での電子カルテ導入の経緯についてお聞かせください。

電子カルテ導入以前の IT 環境は、オーダリングシステムおよび各部門システムの運用でしたが、システムの保守期限が切れることで更新が必要となり、この際に電子カルテを導入しようという決断に至りました。

私は、大学病院勤務時代の電子カルテに関する経験を買われ、電子カルテ導入委員会の長を務めることになりました。電子カルテ導入作業は2019 年8月にスタートし、紆余曲折あったものの、2020 年3月、順調な稼働にいきつけることができたのは幸いでした。

—— クラウド型の電子カルテを導入した理由をお聞かせください。

当院の建物は老朽化が激しく、電子カ

ルテ導入を計画していたところから、数年以内の病院の新築・移転が検討されていた

した。
 そこで、新病院でのシステム構築やデータの移行をする場合、クラウド型のシステムであるなら、通信環境さえ整備できていれば大きな混乱もないだろうと考えたのです。

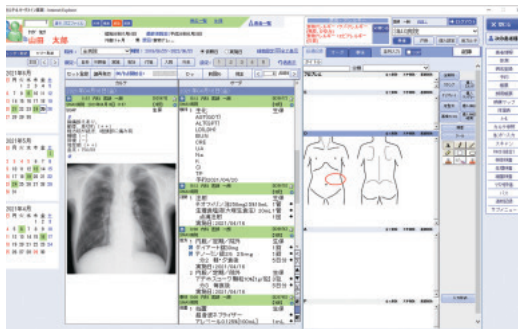
また、クラウド型のシステムであれば、病院に大規模なサーバ等のハードウェアを設置する必要もありません。もしサーバ室を設置するとすると、当院のように老朽化した施設では上層階におけるサーバ室設置が困難で、近年多発している水害等の災害時に貴重な診療データが消失する可能性も考慮しなければなりません。クラウド型であれば、このような心配も不要です。

加えて、法人内の介護部門との連携などの将来性も考慮すると、クラウド型の電子カルテ導入が当然の帰結だったと言えます。

Web 型電子カルテ「Plus-Us カルテ」②
**5つの選考項目で高い総合評価を獲得
 稼働後のシステムの安定性を称賛**

—— ソフトマックスの「Plus-Us カルテ」選定までの経緯をお聞かせください。

システム選定では、電子カルテ導入委員会にて選考評価5項目を点数化して総合評価点数で選考しました。5項目とは、



「Plus-Us カルテ」の電子カルテ画面。Web ブラウザ上で動作するので、クラウド型の構築や複数施設間のネットワークを介しての運用など、施設の要望に合わせた運用が可能。



「Plus-Us カルテ」のベッド管理画面。多くベンダーの、各種部門システムと豊富な連携実績を有しており、多様な部門システム間連携も難なく対応できる。

宇治病院 システム構成図



宇治病院では Web 型電子カルテ「Plus-Us カルテ」のクラウドによる運用を実施。院内部門システムと連動し、診療データの一元化によるシームレスな運用を実現している。

れます。また、当初不安だったシステムトラブル等も、導入から1年以上が経過していますが、大きな故障や障害は発生しておりません。
 なお電子カルテ化したことで、診療データの保存や利活用が容易になり、それから抽出した統計資料等が病院の経営・運営に大いに役立っています。

少融通が利かない点もありますが、それを補って余りある効果を挙げていると実感しています。なお、電子カルテ化にあたり、当院では医療従事者としての患者個人情報保守秘義務の徹底を図っています。
 今後は、電子カルテを基盤に各部門間との連携をより深め、診療情報の共有と更なる効率的な運用を目指していきたいと考えています。

①費用、②クラウドとの通信性、③部門システムとの連携、④機能・性能評価、⑤導入期間および導入時のベンダー側の体制、稼働後のベンダーの体制および保守です。

最も重要な①費用については、導入コスト、ランニングコスト、管理者人件費等含めた7年間のトータル費用を、②クラウド

との通信性では、クラウドサーバの信頼性、安定性、通信速度、バックアップ体制を、③部門システムとの連携では、当院既存の薬剤システム、PACS や RIS との接続性や拡張性を、④機能・性能評価では医師および看護師の使い勝手とシステムの機能や性能を、⑤の導入時および導入後のベンダーの体制と保守については、前システムでの経験から、システム改修や保守に関する交渉等を電子カルテ開発メーカーと直接行えるかなどを評価しました。

最終的に3社のシステムに絞り、それらを検討した結果、コストおよび予算的に最もリーズナブルで、操作性についても使

い勝手が良く、当院のシステムに求める要望にも真摯に対応してくれ、さらに同じ規模の医療機関に導入実績があるソフトマックスの「Plus-Us カルテ」を採用するに至りました。

—— 電子カルテ「Plus-Us カルテ」に対する評価をお聞かせください。

機能について、各部署で全く不満がないというわけにはいかないでしょうが、予算に比して十分な機能を有しているので実務上問題はありません。むしろ、クラウド型にも関わらず、安定した稼働が続けている点を高く評価したいですね。

システムトラブルはほとんどなく、データセンター側のトラブルが1度あった以外は順調に稼働を続けています。現在、月に1度、電子カルテ委員会でミーティングを開催していますが、最近の会合でもトラブルの報告はありませんでした。

しかし、このシステムが真価を発揮するのは、今後予定している新病院への移行作業だと個人的には考えています。

■ 社会福祉法人 あじろぎ会 宇治病院
通信環境の検討と整備に注力してクラウド化を推進し、
導入・維持コストを大幅に削減したシステム構築が実現

Interview

社会医療法人 あじろぎ会 宇治病院
診療技術部長

児玉 博氏

事業企画部 情報システムチーム 主任

下新原 崇氏に聞く



「クラウド運用でのトラブルはほとんどなく、安定した稼働を実現でき、満足しています」と話す診療技術部長の児玉 博氏。

既述のとおり、あじろぎ会 宇治病院では2020年3月から電子カルテシステム「PlusUsカルテ」が稼働している。今回の電子カルテ導入・運用でも中心的な役割を果たしたのが診療技術部長の児玉 博氏である。児玉氏は、診療放射線技師でコンピュータプログラムにも造詣が深く、Excelマクロを用いた集計処理ソフトや、VisualBasicによる自作RISを構築して院内で運用を行ってきたというITリテラシーを有する。児玉氏は、同システムを選定した経緯を、つぎのように語る。

「林理事長や李副院長が述べた通り、当院の新築・移転を見据えた際、オンプレ

ミス型よりもクラウド型のシステムであれば、先の苦勞が少なくて済むとの判断から、クラウド型にすることは簡単に決まりました」

Web型電子カルテ「PlusUsカルテ」③ 通信環境を詳細に検討した上で 電子カルテのクラウド化を推進

クラウド型のシステム構築においてポイントとなったのは、①データセンターの信頼性、②通信回線の安定性、③電子カルテの応答性、④回線の方式、⑤既存の部門システムとの接続の5点であると児玉氏は続ける。

「①のデータセンターの信頼性については、その安定性や事業継続が大きな問題となります。『PlusUsカルテ』では、世界的に事業展開している企業のデータセンターを利用しているもので、その信頼性は高いと評価しました。」

②の通信回線の安定性ですが、病院とは離れた場所にあるデータセンターと通信を行うので、当然その安定性は重要です。今回のシステムでは、万一の通信切断等の事態に備え、回線を複数とする冗長化を図りました。

③の電子カルテの応答性ですが、これが低いと作業効率の低下や操作者のストレスとなります。特に、今回はクラウド型での運用となるため、通信による遅延も課題でした。選考時はプライベートク



下新原 崇 (しもにはら・たかし) 氏
1981年和歌山県生まれ。2006年ECCコンピュータ専門学校システムエンジニアコース卒。複数のSier企業で導入エンジニアや事業会社のシステム責任者を経て、2019年社会福祉法人あじろぎ会に入職、現在に至る。

「短期間での導入だったこともあり、初期トラブルこそありました。しかし、導入後はソフトマックスの担当者も参加する電子カルテ委員会に対応し、導入後1年以上が経過した現在では、ほとんどトラブルは発生していません。」

クラウドの安定性についても、データセンター側のトラブルによる2時間の停止が1回起こりましたが、院内のバックアップサーバに切り替えて運用することにより、限定的ではありましたが診療を継続することができました」

下新原氏は、経営面での貢献度が非常に高いとクラウド化を評価している。

「経営面では、クラウド型であることから初期費用を大幅に抑えることができました。『PlusUsカルテ』はサーバ使用料や保守サービス料もリーズナブルでし、また通信費もベストエフォート回線を使用することで低コスト化を実現しています。部門シス

ラウドによる導入施設の見学や、実際のデータセンターとの通信時間を測定するなどして、電子カルテの通常時の使用に問題はないと判断しました」

なお、④の回線方式については、通信回線の安定性で優位性のある帯域保証型回線と、回線使用料が安価なベストエフォート回線を比較検討したと児玉氏は話す。

「現在はベストエフォート回線による運用を行っており、通信費を抑えることに成功しました。夜間等、回線混雑時の遅延も大きな問題とはならず運用できていると感じています。」

通信速度はオンプレミス型と遜色ないことから、スタッフの中でも、当院の電子カルテがクラウド型と知らないスタッ

フもいるのではないのでしょうか」

⑤の部門システムとの連携についても、通信連携が懸念されたが、大きな問題はなかったと児玉氏は話す。

「電子カルテ導入以前は、オーダリングシステムと部門システムによる運用を行っており、電子カルテと既存の部門システムであるPACSや調剤システムなどとの連携が必要でした。クラウド型電子カルテと部門システムとの連携実績が少なく、少々不安でしたが、問題なくシステム連携を実現することができたのは幸いでした」

Web型電子カルテ「PlusUsカルテ」④ パッケージ型電子カルテに適應した ワークフローに修正して効率化を実現

法人全体のITやシステムを担当している事業企画部 情報システムチームの下新原 崇氏は、電子カルテ導入時の苦勞をつぎのように話す。

「私は前職で情報システム関連の業務に就いていたこともあり、電子カルテ導入の担当として当法人に入職しましたが、電子カルテ導入というプロジェクトを推進するにあたって、病院内のスタッフとのコミュニケーションをとるのが大変でしたね。」

「PlusUsカルテ」はパッケージ型のシステムなので



通信回線は、コスト面で優位なベストエフォート回線によるクラウド運用を実施。オンプレミス型と遜色ない動作速度を実現している。

テムはオンプレミスの部分も残っていますが、今回のクラウド化による電子カルテ導入は、経営面で大きな貢献をしているのではないのでしょうか」

Web型電子カルテ「PlusUsカルテ」⑤ 新病院へのシステム移転を見据えて 情報の一元化と業務の効率化を推進

電子カルテ導入後の課題について、下新原氏はつぎのように話す。

「システムの操作性については、承認作業の際のクリック数の低減など、改善してほしい箇所はまだありますが、現在はソフトマックスの担当者が常駐せずともシステム自体は安定して稼働しており、とても満足しています。」

一方で、電子カルテ導入後も手作業による集計や紙カルテ時代の運用をそのまま続けている部署もあり、運用の改善を進めていきたいと考えています。また、現在は宇治病院内だけの運用で

社会福祉法人あじろぎ会



宇治市西笠取の同法人・笠取ふれあい福祉センター

社会福祉法人あじろぎ会は、新たに「利他の心を以て 関わるすべての人の幸福を追求し 地域の医療と福祉に貢献する」という理念を掲げ、宇治病院を中心に、平成老人保健施設（老健・デイケア）、笠取ふれあい福祉センター（特養・ショートステイ・デイサービス・ケアハウス）、在宅事業（ケアプランセンター・訪問看護・訪問リハビリ・福祉用具）を展開。地域に根差した社会福祉法人となる組織を目指した取り組みを続けている。

所在地：京都府宇治市五ヶ庄芝ノ東 54-2
理事長：林 顕太郎